

平成29年度 長野県上田高等学校 定時制始業式 校長講話

平成29年（2017年）4月10日

おはようございます。

この3月に、転出される先生を送り出しましたが、先程は、新しくお見えになった先生がたを迎え、今年度の定時制の職員が勢ぞろいし、また、今日こうして4年生から新入生まで全部の生徒が揃って、いよいよ新しい年度が始まるなあという感じがしています。

年度の初めに当たって、それぞれが「よーし、今年は・・・」という想いを持っていることと思います。今年度卒業を目指す人、進学や就職を決めるぞという人も含まれています。高校入学を機に心機一転頑張ろうという強い決意の人もいると思います。ぜひそれを実行し、継続してほしいと思います。続けることが大事です。

みんなが今年度1年間、どんな高校生活を送るか、楽しみにしています。

さて、先週の木曜日には、入学式が行われ、定時制には34人の新入生が入学しました。昨年、一昨年と、ここ上田では、例年より早く桜の花が咲き、新入生は古城の門の前で、桜と一緒に集合写真を撮影することができました。10年に1回あるかないかということが2年続けて起きたので、今年も、という期待が結構強くあって、結果的に今年花が咲かなかったことを、正直言うと、私は結構残念に思ったんですね。ところが、その一方で、そんなことには触れることもなく、「今年は例年になく暖かくてよかったですね」ということを言っている人もいて、それを聞いた時に、私は反省したんです。外と直接接しているこの体育館で入学式や卒業式を行うのは、ちょっと寒いだけでとても大変なんですね。広い上に天井が高く、なかなか温まらないだけでなく、扉を開け閉めする度に外の空気が入って来て室内の気温が一気に下がるからです。それが、今年は暖かかったために、会場にいた人たちが辛い思いをせずに入学式を行うことができた。そんなことはめったにないことで、桜の花が入学式に間に合わなかったことを言うよりも、いつも以上に暖かい入学式でよかったということ言うべきだったし、これからはそう言おう、と思ったんです。

入学式という1日の間に起きたことの何を口にするか。特に、自分たちの力ではどうにもならないことは、マイナス面やよくなかった点を言うのではなく、よかったことを取り上げて話すことが大事なことなんだと思います。人生にはいろんなことが起きます。いいことも悪いことも、楽しいことも辛いことも起きます。日々頭にはいろんなことが思い浮かびますが、できれば、よかったこと、楽しかったことを思い浮かべ、それを言葉にしながら毎日を過ごしていきたいものだと思います。

もう一つ、別の話をします。

私もそこそそ長く人生を生きていますので、その経験の中で、本当に正解かどうかは別と

して、自分なりにこれはこういうもんだという、ある意味、自分なりの確信ともいうべき考えがいくつかあって、その中の一つに、こんなことがあります。

新入生はともかくとして、多くの生徒がバイトをしているので、ある程度想像ができるだろうと思ひながら話しますが、みんなよりもうちょっと年上の人から私くらいの年齢のサラリーマンとか、公務員とか、そういう社会人で、これまで何か所か職場に勤めたことのある人に、「これまで勤めた職場はどんな職場でしたか？」という質問をすると、大きく言って2通りの答えが返ってきます。2通りの人がいると言ってもいいと思います。

まずは、「周囲の人のおかげで何とかやって来られました」とか「私は不思議と同僚に恵まれるんですよ」とか、自分のことには触れずに周囲の人を評価したり感謝したりする人がいます。一方で、「ひどい職場ばかりでした」とか「どうも環境に恵まれないんですよ」とか、これまた自分のことはさておいて周囲の人を悪く言う人がいます。どちらも、そういうふうに感じているんだから嘘を言っているわけではないだろうし、実際にその人にとってはそのとおりであったんだろうと思います。しかし、「周りに恵まれた」という人は、その人自身が社会人としても人間としても素晴らしい人だったから周りに恵まれたのだし、「周りに恵まれなかった」と周りを非難する人は、実はその人が社会人としても人間としても不十分な人だったからそうだったんだ、というケースがほとんどだと、私は思っているんです。

私が言いたいのは、「職場はどうですか？」と訊かれたら、実際はそうでもないのに「素晴らしいです」と答えなさい、ということでは、もちろんありません。

職場だけでなく、学校もクラスも同じですが、自分自身もその一員であるという認識をまず持ってほしいということです。自分が所属する、あるいはしていた集団について聞かれた時、自分がいる集団が「素晴らしい」と感じるならば、実はその、素晴らしい集団のメンバーに自分も含まれているのだし、「へばい」と感じるのならば、自分もその、へばいメンバーの一人なんだよということが言いたいのです。

この、上田高校の定時制にしても、今この体育館にいる生徒と教職員で全員です。毎日過ごす学校の雰囲気や歴史は基本的にはここにいる人たちがつくっていくわけで、そのメンバー一人ひとりがどんな気持ちでどうしようとしているのかによって、この学校がよい学校になるかどうかが決まって来るんです。

上田高校の定時制に来る人たちの多くは、人の気持ちの分かる人たちです。自分がつらい思いをした分、大変だった分、他の人の気持ちを考えられるんですね。そういう人たちが高校でしっかり頑張ろうと決意してここにやって来る。そういう集まりであるこの定時制は、地域や中学生から、ものすごく高く評価されています。今年も、誰にとっても一層居心地のいい、一層いい雰囲気学び舎になるよう、ここにいるみんなで努力しようじゃないかと、新学期の始まりに当たって、みんなに伝えたいと思います。

今年度1年間、一緒に頑張りましょう。

終わります。